

あなたのジェンダー・タイプは？

2019.4.1.

目次

1. ジェンダー・タイプとは何でしょう

- ♪ まず、質問紙（CAS）に答えてみましょう …………… 2
- (1) あなたのジェンダー・タイプは、4つのうちのどれですか？ …………… 3
- (2) それぞれのジェンダー・タイプの特徴を見ましょう …………… 5
 - ① 性別にこだわり、性差を大きく見積もる傾向（ジェンダー・スキーマ）は？ …… 5
 - ② 女、男としての自分らしさの確立（ジェンダー・アイデンティティ）は？ ……6
 - ③ マイナス面の女性性(共同性)と男性性（作動性）は？ ……………8
 - ④ 性別や年代などによる違いは？ …… 11

2. ジェンダー・タイプは、私たちの行動や心身の健康に、どう影響するのでしょうか？

- (1) 女性が妻・母・就業者としてイキイキできるのは、両性具有型 ……15
- (2) 男性性が強いと、男性も女性も、タイプA行動傾向に ……………16
- (3) 初対面の男女一対一で、話し上手、聞き上手なのは、両性具有型 ……16
- (4) デートでは、ジェンダー・タイプなどお構いなしで、男と女を演じ切る ……17
- (5) 学生コンパでは、下戸より上戸が、女性より男性が、多く支払うのが相場 ……18
- (6) 母も娘も、内面的なおしゃれをするのは、両性具有型 ……19
- (7) 自分がない男性はDVに走り、自分がない女性はDVを助長する ……20
- (8) 両性具有型はリーダーになるが、そこからストレスも感じている ……20
- (9) 心の健康度が最も高いのは、両性具有型。…でも、夫婦関係は？ ……22
- (10) 将来の家族関係への志向性にまでは、つながりにくい ……23
- (11) 女性性の高い男性は、日傘をさすことへの抵抗が低い ……25

3. ジェンダー・タイプのこれまでとこれから

- (1) 家族の世代間連鎖やきょうだい関係とジェンダー・タイプ …… 25
- (2) 変わり続ける、女らしさ・男らしさの中身 ……25

(3) 日本社会と女らしさ・男らしさ ……28

(4) 女子大学生へのエール ……28

1.ジェンダー・タイプとは何でしょう

表1 CAS (共同性—作動性尺度 ; 土肥・廣川,2004)

♪ 下の1から24の各項目は、どれくらいご自分に当てはまりますか。

1(全く当てはまらない)、2(あまり当てはまらない)、3(やや当てはまる)、4(かなり当てはまる)のいずれか1つを選んで、番号を○で囲んで下さい。

		全く当ては まらない	あまり当て はまらない	やや当ては まる	かなり当て はまる
1	ありがとうの言葉を口に出せる	1	2	3	4
2	無能な人は我慢できない	1	2	3	4
3	他人を自分のいいなりにさせる	1	2	3	4
4	他人のことを気にしすぎる	1	2	3	4
5	相手の立場にたって考えられる	1	2	3	4
6	相手の言い分に耳をかさない	1	2	3	4
7	素直に謝ることができる	1	2	3	4
8	積極的に活動する	1	2	3	4
9	人前で自分の意見をいうのは苦手だ	1	2	3	4
10	人をほめるのがうまい	1	2	3	4
11	すぐに人に頼ることを考えてしまう	1	2	3	4
12	人の言葉に傷つきやすい	1	2	3	4
13	人に攻撃的な態度をとる	1	2	3	4
14	人と協力できる	1	2	3	4
15	周りの人のことを考えすぎて、行動できない	1	2	3	4
16	自分の意見は主張する	1	2	3	4
17	自分に自信がある	1	2	3	4
18	自分とは異なる意見を、受け入れることはできない	1	2	3	4
19	思いやりをもって人と接している	1	2	3	4
20	困難なことにぶつかってもくじけない	1	2	3	4
21	一度決心すれば、すぐに行動に移す	1	2	3	4
22	意志が強く、信念を持っている	1	2	3	4
23	人の失敗は許せない	1	2	3	4
24	人の発言を深読みしすぎる	1	2	3	4

(1) あなたのジェンダー・タイプは、4つのうちのどれですか？

ジェンダー・タイプとは、女性性と男性性のプラス面の高さによって決定する、ジェンダー・パーソナリティのことです。

一般に社会で女性に期待された性格（他者への気配りや献身，愛嬌，感受性，従順さなど。これらを共同性といいます）が，女性性です。

一般に社会で男性に期待された性格（行動力，決断力，指導力や，自己主張的，野心的など。これらを作動性といいます）が，男性性です。

さっそく，女性性の得点と男性性の得点を，ご自分で算出してみてください。先ほどの表の中にあつた以下の6項目の，○をつけた番号（1から4のいずれか）を合計してください。

プラス面の女性性（共同性）得点； 1, 5, 7, 10, 14, 19の項目の合計点

プラス面の男性性（作動性）得点； 8, 16, 17, 20, 21, 22の項目の合計点

女性の場合、男性性得点が15点以上で、女性性得点が18点以上の人は、心理的両性具有型です。

男性性得点が15点以上で、女性性得点が17点以下の人は、男性性優位型です。

男性性得点が14点以下で、女性性得点が18点以上の人は、女性性優位型です。

男性性得点が14点以下で、女性性得点が17点以下の人は、未分化型です。

男性の場合、男性性得点が16点以上で、女性性得点が18点以上の人は、心理的両性具有型です。

男性性得点が16点以上で、女性性得点が17点以下の人は、男性性優位型です。

男性性得点が15点以下で、女性性得点が18点以上の人は、女性性優位型です。

男性性得点が15点以下で、女性性得点が17点以下の人は、未分化型です。

下の図1にもあるように、男性性も女性性も高い人は心理的両性具有型、男性性は高く女性性は低い人は男性性優位型、女性性は高く男性性は低い人は女性性優位型、男性性も女性性も低い人は、未分化型となります。あなたはどのジェンダー・タイプでしたか？

（ただし、このタイプ分けの基準は、ひとつの目安程度にお考え下さい。）

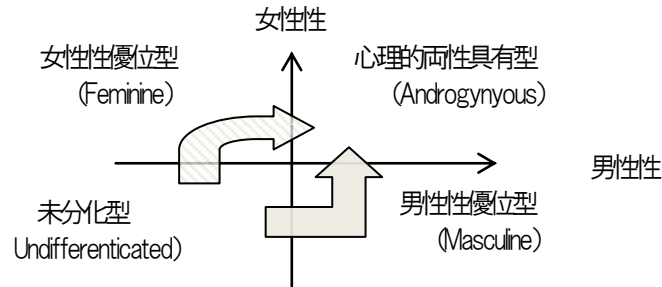


図1 男性性、女性性のプラス面の高低で決定されるジェンダー・タイプ

図1に示した通り、個人は、未分化な状態から出発し、「男は男らしく、女は女らしく」といったジェンダーにそったパーソナリティになるように期待されます。それによって、男らしさとは何か、女らしさとは何か、男女はどう違うのかななどの、男女を二分してものを考える傾向（これがジェンダー・スキーマです）が身についていきます。そして、ジェンダー・スキーマを自分自身の性格形成にも当てはめることで、男性は男性性優位に、女性は女性性優位になる時期を迎えると考えられます。

しかし、青年期以降、女性として、あるいは男性としての自分らしさ、すなわちジェンダー・アイデンティティ(土肥,1996a)が確立してくると、心理的両性具有型に近づくと考えます。というのは、ジェンダー・アイデンティティがあることで、自分らしさや自分の生き方を貫くためには、男性性（作動性）も女性性（共同性）も両方とも必要なものであることを認識するようになるからです。また、男性的、女性的といった区別にはこだわる必要がないことや、少なくとも自分の性格形成には無意味な二分であることなども理解できるようになるからです。つまり、図2に示した通り、ジェンダー・アイデンティティはジェンダー・スキーマを抑制することを介して、あるいは直接、心理的両性具有性を促進するのではないかと考えています。

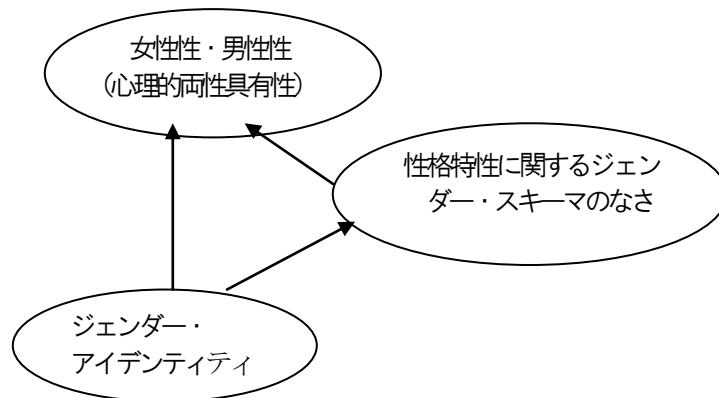


図2 女性性・男性性の規定因に関する仮説モデル(土肥,1999)

(2) それぞれのジェンダー・タイプの特徴を見ましょう

① 性別にこだわり、性差を大きく見積もる傾向（ジェンダー・スキーマ）

もし、あなたが女性で、女性性優位型であれば、あなたは、「女はこうあらねばならない」とか「男は男らしく」とか、男女の違いは決定的である、などと考える傾向が強いと思われます。男性の場合は、男性性優位型の人が、これと同じような考え方をする傾向が強いと思われます。

こうした考え方をする人は、ジェンダー・スキーマが強く、まわりの人やモノなど、あらゆる対象について、「これは男性的、これは女性的」などと区別をつけたがります。さらに、自分自身についてもジェンダー・スキーマを当てはめてしまうために、自分の性別にこだわりながら性格形成をしたり、「私は女だから・・・できない」などと、自分の可能性を性別によって制約してしまうのです。

土肥（1994）の研究では、被験者の大学生に、男性性を示す形容詞と女性性を示す形容詞をランダムな順で提示し、それを思い出した順番に書き出してもらいました。すると、ジェンダー・スキーマの強い大学生は、形容詞リストを「男性性」「女性性」のカテゴリー分けをしながら提示された形容詞を覚えました。というのは、男性性の形容詞、女性性の形容詞を「ひとかたまりにして、つなげて」思い出していたからです。反対に、あまりジェンダー・スキーマの強くない学生は、こうしたカテゴリーを用いて記憶しないので、思い出す時には、男性性、女性性カテゴリーでまとめることなく、混ぜこぜで思い出す傾向がありました。

また、土肥(1998)の研究では、男性に関して、図3のグラフに示されるように、ジェンダー・タイプによるジェンダー・スキーマの強さの違いが確かにありました。つまり、男性性優位型の人には、“男性には行動力があり、たくましい、「男性的」な人はたくさんいるが、女性にはそのような人はあまりいない” などという思い込みをもつ傾向が強かったのです。

ただし、女性に関しては、ジェンダー・タイプによるジェンダー・スキーマの強さの違いは認められませんでした。男らしいとされるものを容易に自分の性格に取り入れる男性とは異なり、女性は、ジェンダー・スキーマが強いことと、それを自分の性格に取り入れることが、直接結びつきにくいようです。

また、以前は、ジェンダー・スキーマ自体の高さも、女子大学生より男子大学生の方が高い傾向がありました。男性は、“男性社会” からジェンダーの恩恵を受けていたのでしょう。そして、女性は、ジェンダー・スキーマをもっているにもかかわらず、社会的に不利になるか、少なくとも得にはならない

と考えられていたのかもしれませんが。ところが、後で述べる3-(2)の最近の調査では、男子大学生の方が女子大学生よりジェンダー・スキーマが低い、という結果が得られています。両者で用いた尺度項目が同一でないため、得点を直接比較することはできないのですが、男子大学生も、男らしく生きていても得しない、あるいは負担を感じ、ジェンダー・スキーマをもつことから下り始めたのかもしれませんが。

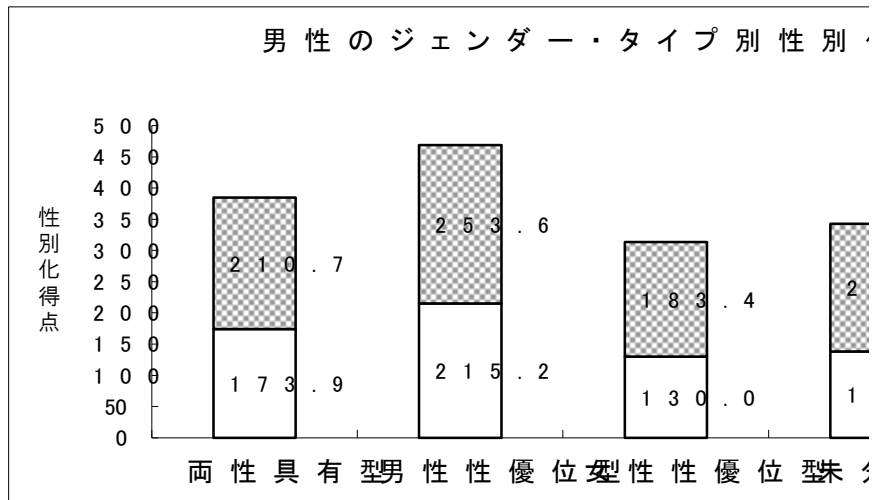


図3 男性のジェンダー・タイプ別 ジェンダー・スキーマ（性別化）得点

② 女、男としての自分らしさ、生き方の確立（ジェンダー・アイデンティティ）

ジェンダー・アイデンティティは、女らしく・男らしくなることではありません。女、男としての自分らしさのことで、エリクソンの自我アイデンティティを参考にして提起した概念です。それを確立するには、自分の性を受容していることや、幼い頃から父母（あるいは身近な養育者）をモデルにし、自分の生き方を考える経験が必要であると考えます。そして青年期頃には、女（男）であることを踏まえた上での自分らしさ、個性をもつことにより、人間的魅力で惹かれ合う異性関係が結べるようになるかと予想されます。

ジェンダー・アイデンティティを測るために、以下のような尺度項目を作成しました。男女用とも、「性の受容」「父母との同一化」「異性との親密性」という3つの下位スケールで、ジェンダー・アイデンティティの各側面をとらえています。

表2 ジェンダー・アイデンティティ尺度 (土肥,1996a : 女性用より抜粋)

「性の受容」の項目
私は女に生まれて損をした (反転項目)
女ならではの人生の楽しみを見つけない
だいたいの出産プランがある
「父母との同一化」の項目
母から女としての生き方を見出した
親への反発や反抗心が今でもある (反転項目)
私の親は話がわかる
「異性との親密性」の項目
異性に対しては自分から話しかける方だ
異性の友人が多い
好きな異性にアピールできる個性がある

次の図4 (女性) と図5 (男性) のグラフは、ジェンダー・タイプ別にジェンダー・アイデンティティの3側面(「性の受容」「父母との同一化」「異性との親密性」)の確立度を表したものです。

女性の場合、両性具有型の「性の受容」は、他の3タイプに比べて高いことがわかりました。これは、図2の女性性・男性性の規定因に関する仮説モデルを支持しています。しかし、「異性との親密性」は、両性具有型だけでなく男性性優位型も高くなりました。

また、男性の場合、両性具有型と並んで男性性優位型も、いずれのジェンダー・アイデンティティの側面においても、高くなりました。

これらの結果は、ジェンダー・アイデンティティが両性具有性を高めるとする図2の仮説モデルを十分に支持したものではありません。今後、さらなる検討が必要です。

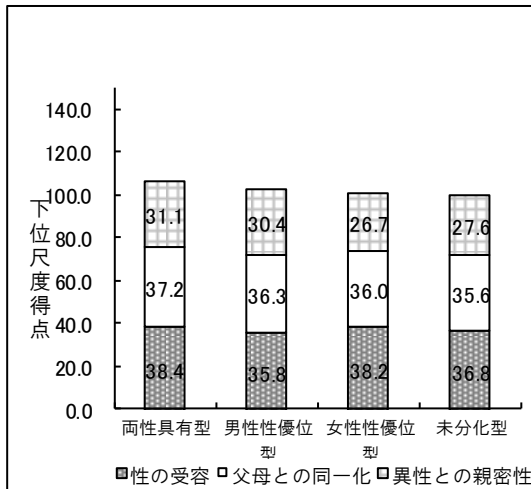


図4 女性のジェンダー・タイプ別
ジェンダー・アイデンティティ得点

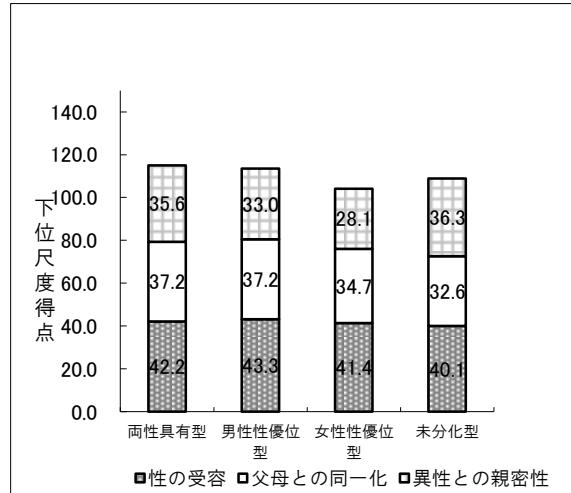


図5 男性のジェンダー・タイプ別
ジェンダー・アイデンティティ得点

③ マイナス面の女性性(共同性)と男性性(作動性)は？

ジェンダー・タイプ別に、女性性(共同性)と男性性(作動性)のマイナスをみてみましょう。ここでマイナス面というのは、作動性や共同性の度が過ぎている、過剰である状態と考えて下さい。

たとえば、作動性(男性性)は、行動力や決断力、自己主張や自信があるのはプラス面ですが、自己主張が強いあまり、人の話を聞かなかつたり、人を自分の思う通りにさせようと攻撃的になってしまうのは、作動性のマイナス面です。

また、共同性(女性性)は、人の気持ちを敏感に察知できたり、人当たりが良かったり、人間関係を丸くおさめることができるのはプラス面ですが、自分で努力せずに人任せにしたり、言うべきことまで言えなかつたりするのは、共同性のマイナス面です。

では、あなたのマイナス面を測りましょう。先ほどの表の中にあつた以下の6項目の、○をつけた番号(1から4のいずれか)を合計してください。

マイナス面の女性性(共同性)得点； 4, 9, 11, 12, 15, 24の項目の合計点

マイナス面の男性性(作動性)得点； 2, 3, 6, 13, 18, 23の項目の合計点

Helgesonらは、プラス面の男性性（作動性）はマイナス面の女性性（共同性）を抑制し、プラス面の女性性（共同性）はマイナス面の男性性（作動性）を抑制できると考えています。これを示したものが、図8です。そこでは、プラス面は楕円形で、マイナス面は長方形で表しました。また図形の大小によって、それが強いか弱いを表しています。

未分化型は、ジェンダー・スキーマもジェンダー・アイデンティティも弱いので、プラス面の女性性（共同性）と男性性（作動性）との両方が低くなります。そのため、マイナス面の女性性や男性性を抑え込むことはできにくいと考えられます。

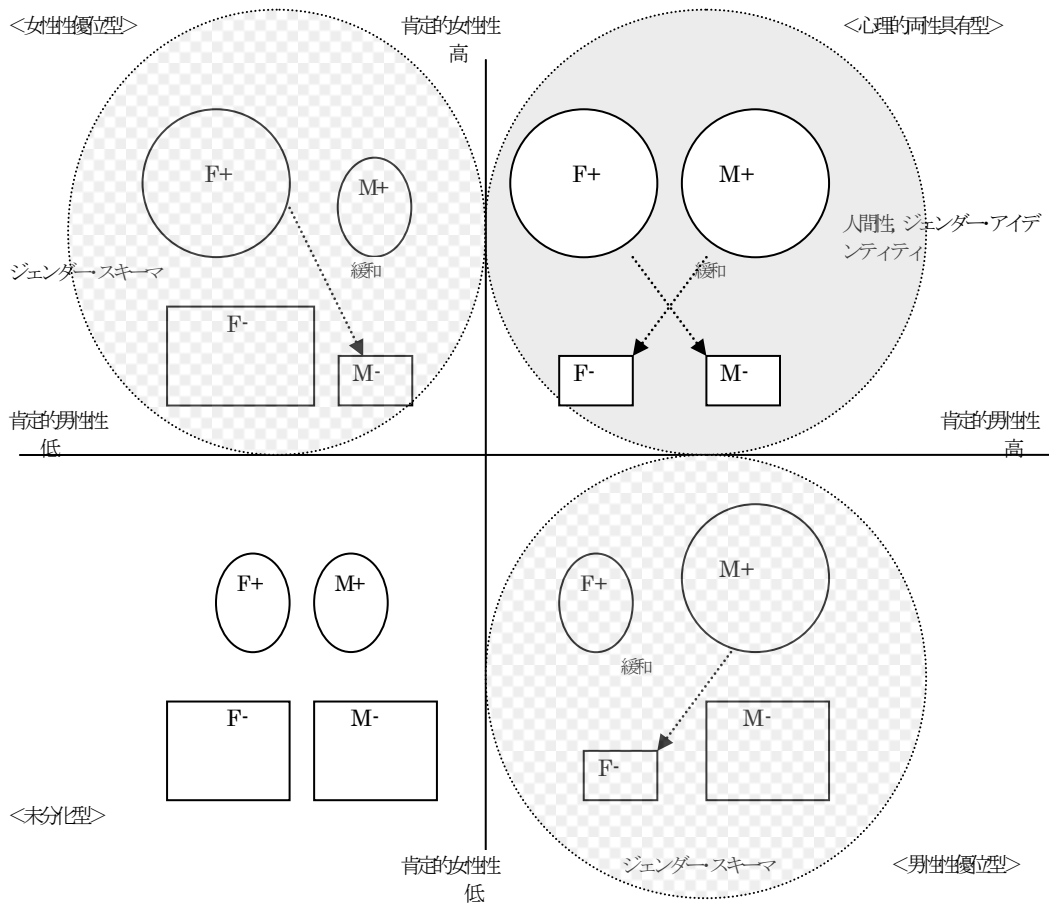


図8 男性性と女性性のプラス・マイナス両面からみたジェンダー・タイプ

男性性優位型はジェンダー・スキーマが強いので、男性の場合は男性性（作動性）が、プラス・マイナスに関わらず、両方高くなってしまうと予想できます。ただし、男性性（作動性）のプラス面が高いので、マイナス面の女性性（共同性）は低く抑えられるでしょう。

女性性優位型もジェンダー・スキーマが強いので、女性の場合は女性性（共同性）が、プラス・マイナスに関わらず、両方高くなってしまうと予想できます。ただし、女性性（共同性）のプラス面が高いので、マイナスの男性性（作動性）は低く抑えられるでしょう。

それに対して両性具有型は、プラス面は男性性(作動性)も女性性（共同性）も高く、マイナス面はそのどちらも低くなると予想できます。両方のプラス面が、両方のマイナス面を抑制するからです。

土肥・廣川（2004）の研究結果によれば、女性の場合、男性性優位型と両性具有型は、プラス面の男性性（作動性）の高さは、ほぼ同じです。しかし、図6にあるように、男性性優位型のマイナス面の男性性（作動性）の強さは、両性具有型より高くなってしまいました。

同様に、女性性優位型と両性具有型は、プラス面の女性性（共同性）高さは同じです。しかし、図6にあるように、女性性優位型で女性性だけを高くもってしまうと、マイナス面での女性性（共同性）も高くなってしまいました。

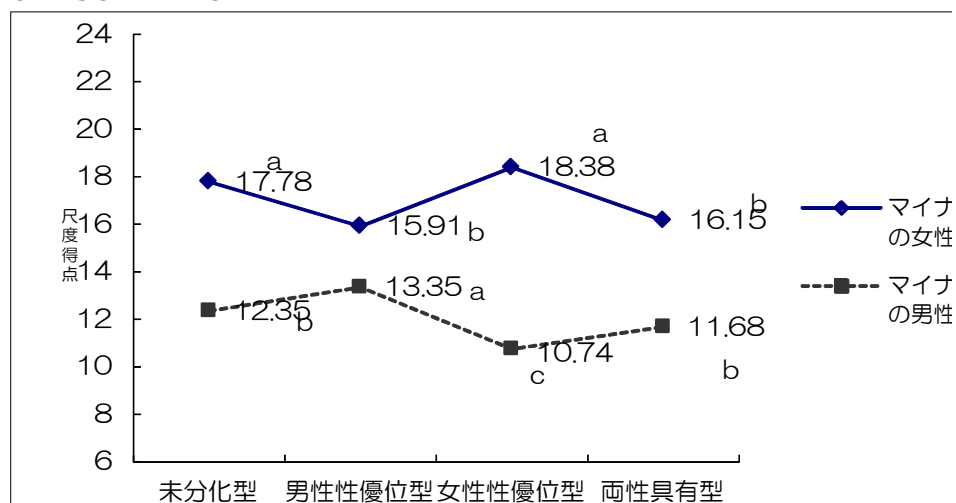


図6 女性のジェンダー・タイプ別マイナス面の女性性と男性性

(数値横のa,b,cの文字が違うものの中には、得点の差異が統計的に認められている)

次に男性に関しても、女性と同じようなパターンの結果が出ました。

すなわち、男性性優位型と両性具有型は、プラス面の作動性（男性性）の高さは同じです。しかし、図7にある通り、男性性優位型で男性性だけを高くもってしまうと、マイナス面での作動性（男性性）も高くなりました。

同様に、女性性優位型と両性具有型は、プラス面の女性性（共同性）の高さは同じです。しかし、図7にある通り、女性性優位型は、マイナス面の女性性（共同性）の強さは、両性具有型より高くなりました。

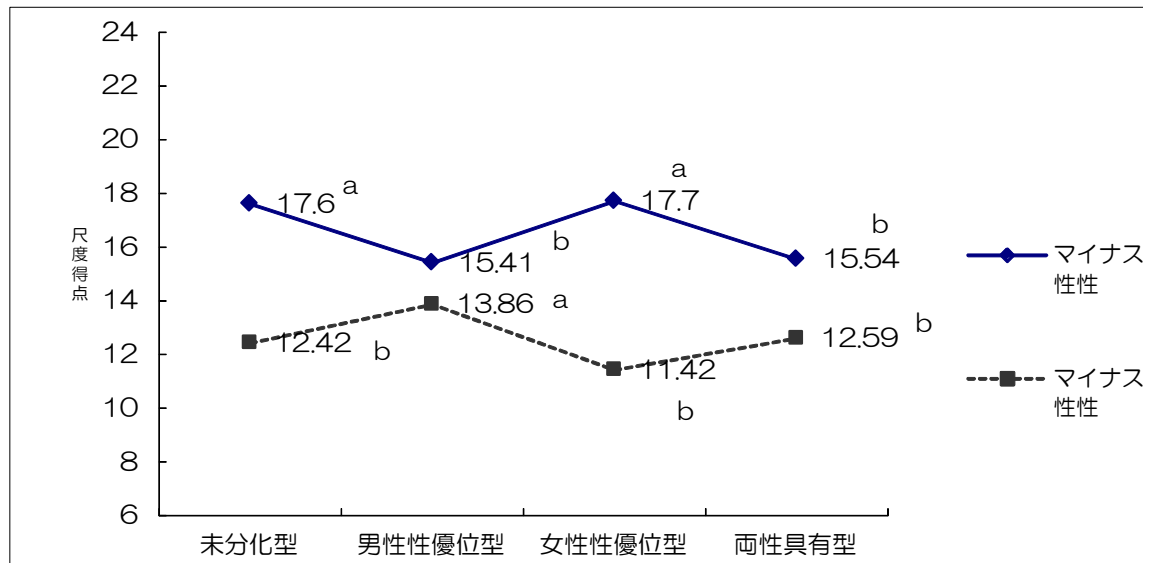


図7 男性のジェンダー・タイプ別マイナス面の女性性と男性性

(数値横のa,b,cの文字が違うものの中には、得点の差異が統計的に認められている)

以上の結果から、男女にかかわらず、プラス面の女性性(共同性)と男性性（作動性）は、両性具有型のように、その両方が高いことが望ましいといえます。両方とも高くないと、一方のマイナスの部分が出てしまうことがわかります。

④性別や年代などによる違いは？

(a) 男女大学生のデータ

これまで何回か、大学生に実施した調査データでは、CASの平均点は以下の通りです。4側面のそれぞれの得点を、男女で比較するために、t検定をしました。表3の右端の列に、女>男とあるのは、女子大学生の平均値が男子大学生よりも統計的に有意に高いことを表します。女<男は、反対に男子大学生の方が高いことを表します。n.s.とあるのは、有意な男女差があるとはいえない場合です。

全体的に、あまり男女差のある得点は多くありませんでした。ただし、差がある場合は、女性性（共同性）は女性の方が高く、男性性（作動性）は男性の方が高いことがわかりました。

また、得点自体の、ここ15年ほどの間の変化は、ほとんどありませんでした。

表3 CAS(共同性—作動性尺度)の男女大学生の平均値と標準偏差 (S.D.) と男女差

	女子大学生		男子大学生		t 値	
	平均値	S.D.	平均値	S.D.		
2001年実施 (土肥・廣川, 2004)	303名		169名			
女性性(共同性)のプラス面	18.3	2.4	18.2	2.7	-0.493	n.s.
男性性(作動性)のプラス面	14.8	3.3	15.5	3.5	*2.27	女<男
女性性(共同性)のマイナス面	17.0	3.0	16.5	3.4	-1.72	(*)
男性性(作動性)のマイナス面	12.0	2.7	12.7	2.9	*2.28	女<男
2007年実施 (土肥・廣川・水澤, 2008)	644名		289名			
女性性(共同性)のプラス面	18.8	2.5	18.5	2.9	-1.47	n.s.
男性性(作動性)のプラス面	15.3	※15.3	15.5	3.6	.79	n.s.
女性性(共同性)のマイナス面	17.2	3.2	16.4	3.6	** -3.30	女>男
男性性(作動性)のマイナス面	11.8	2.8	12.1	3.1	1.06	n.s.
2015年実施 (未発表)	451名		463名			
女性性(共同性)のプラス面	18.6	2.7	17.8	3.0	***4.38	女>男
男性性(作動性)のプラス面	15.1	3.4	15.2	3.7	-.79	n.s.
女性性(共同性)のマイナス面	16.9	3.5	16.6	3.2	1.39	n.s.
男性性(作動性)のマイナス面	11.7	3.0	12.4	3.1	***-3.5	女<男

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 (*) p<.10

(b)子育て中の父母のデータ

次に、私立保育園、家庭託児所に子どもを通わせている母親(119名、平均年齢33.2歳)と父親(79名、平均年齢36.1歳)の結果です。(土肥,2011b) 父母ともに、大学生の男女の結果に比べて、女性性(共同性)も男性性(作動性)も、プラス面が高い傾向がみられます。

表4 CAS(共同性—作動性尺度)の子育て中の父母の得点

	母親		父親		t 値	
	平均値	S.D.	平均値	S.D.		
女性性(共同性)のプラス面	19.59	2.74	18.99	3.13	-1.42	n.s.
男性性(作動性)のプラス面	16.12	3.23	18.21	5.40	**3.38	女<男
女性性(共同性)のマイナス面	15.75	3.04	14.04	3.44	***-3.63	女>男
男性性(作動性)のマイナス面	10.99	2.67	12.08	4.02	*2.10	女<男

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 (*) p<.10

父母間の比較をしてみますと、女性性のプラス面には父母間の差はありませんでしたが、男性性のプラス面と男性性のマイナス面は父親の方が高いことがわかりました。また、女性性のマイナス面は母親の方が高くなりました。ここでも、肯否に関わりなく、共同性が高いのは女性の方、作動性が高いのは男性の方であることがわかります。

この調査を行ったのは2007年でした。その頃に、平均で30歳を少し越えた父母への調査ということですので、調査対象者は、1975年前後の生まれでしょう。そのころは、日本社会では専業主婦の割合がピークであった時代です。つまり、調査対象者の多くは、専業主婦に育てられてきたと予想できますが、親となった現在は、自分たちの子どもを保育園に預けています。このように、社会全体での世代によるライフスタイルの変化が起こっている割に、パーソナリティは以前と同様、ジェンダーに沿っており、あまり変わっていないといえます（3-(1) 家族の世代間連鎖、きょうだい関係とジェンダー・タイプの項を参照のこと）。

(c) 北海道新聞の読者モニターのデータ

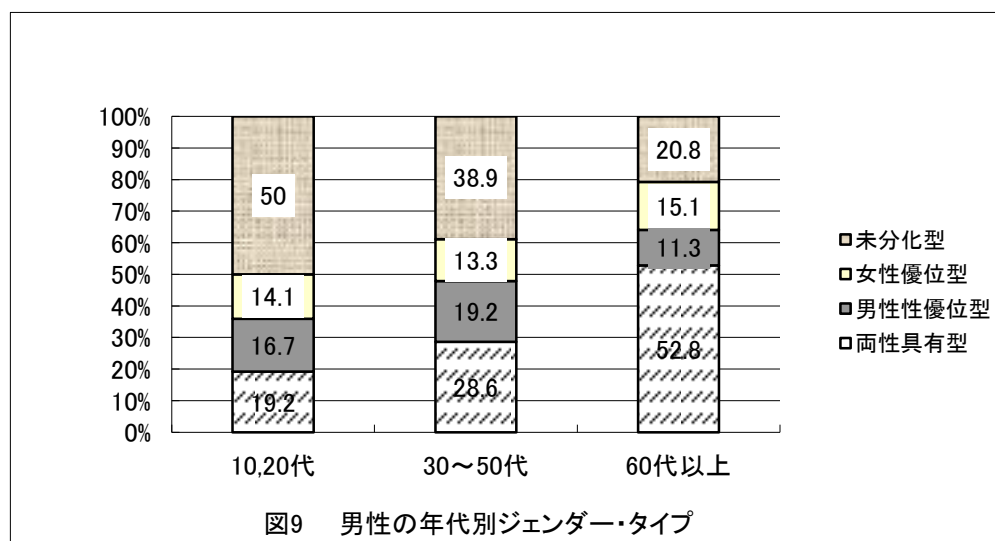
山品・土肥・Lee・玉城（未発表）は、2004年3月、北海道新聞情報研究所が提供するインターネット・モニター・システム、「Doshinネット」のアンケート・サイト上で、CAS（共同性－作動性尺度のプラス面）、社会生活での男女の役割、性意識、結婚観に関するアンケート調査に回答するよう依頼し、730名からの回答を得ました。調査対象者の性別の内訳は、女性が368名、男性362名 計730名、年代の内訳は、10代が43名、20代が121名、30代が145名、40代が173名、50代が146名、60代以上が102名でした。このモニターは、2003年1月時点で、モニター登録している男女4,500名を北海道人口の縮図となるように層別化したものです。

調査結果について、男女別に、年代が上がるとジェンダー・タイプがどう変化するかを分析しました。その結果、男性は、年代によるジェンダー・タイプの違いが顕著でした。具体的には、10代と20代では未分化型が半数を占めましたが、30～50代で、男性性優位型と両性具有型の割合が増え、60代以上ではさらに未分化型の割合が下がるとともに男性性優位型の割合も下がり、その分、両性具有型が増え、その割合が約半数を占めていました（図9参照）。女性の場合は年代とジェンダー・タイプには統計的に意味のある関連は認められませんでした（図10参照）。ただし、女性性と男性性の得点が性別と年代によってどう異なるかを検討するため、別の統計的検定を行なったところ、女性性は年代による違いがあり、男性性は性別による違いと年代による違いの両方があることが明らかになりました。具体的には女性性も男性性も、年代が高くなるほど得点が高くなり、さらに男性性に限っては、女性より男性の方が高いことがわかりました。

以上の調査結果は、土肥(1999)の男性性・女性性の規定モデルの妥当性を示唆する結果となっています。すなわち、年齢とともにジェンダー・スキーマが薄れ、男女の違いを認識する事が少なくなってくるか、もしくは気にならなくなるために、年齢を重ねると両性具有に近づきやすくなっていくと考えられます。そして、ジェンダー・アイデンティティが確立するにつれ、ジェンダー・スキーマは、他者を誤って判断してしまう可能性があることなどの弊害や、自分自身のパーソナリティ形成のためには、あまり頼りにするべきではないことに気づく経験が増したと考えられます。

表5 北海道新聞のアンケート回答者のCAS得点

		10,20代		30~50代		60代以上	
		平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.
女性性（共同性）の プラス面	女性	18.05	2.63	18.36	2.64	18.80	2.96
	男性	17.24	2.91	18.15	2.95	19.36	2.05
男性性（作動性）の プラス面	女性	15.86	3.47	16.17	3.15	17.33	3.06
	男性	15.83	3.61	17.04	3.35	18.43	2.42



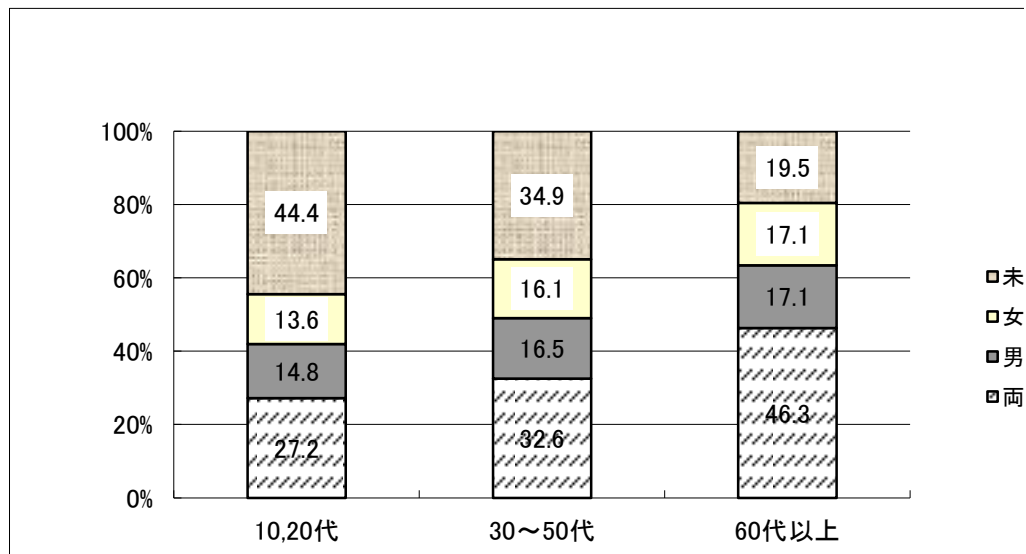


図9, 図10の出典は, 土肥(2011b)

2. ジェンダー・タイプは私たちの行動や心身の健康にどう影響するのでしょうか？

(1) 女性が妻・母・就業者としてイキイキできるのは, 心理的両性具有型

土肥・広沢・田中(1990)は, 大卒女性に対して郵送による質問紙調査を行ない, 妻・母・就業者役割から得られる役割達成感の高さを, ジェンダー・タイプ間で比較しました。その結果, 男性性優位型は就業者役割から, 女性性優位型は妻・母役割からは高い役割達成感を得ていたのですが, 妻・母・就業者の全ての役割から高い達成感を得ているのは, 両性具有型の女性でした。また, 多重に役割をこなす傾向が強いのも, 両性具有型でしたが, 引き受ける役割が多いことは生活満足感を高める一方, 疲れて役割過負荷を感じる傾向があることもわかりました。

男女に関わらず, 仕事にも家庭にもバランスよく関与し, 自立的な生活を送るためには, 女性性(共同性)も男性性(作動性)も必要です。がんばりすぎてむやみに役割を増やし過ぎない程度に, 両性具有型の人のように, いろいろな役割から高い達成感を得て, 充実した毎日を過ごしたいものです。

(2) 男性性が強いと、男性も女性も、タイプA行動傾向に

タイプA行動傾向とは、虚血性心臓疾患（心筋梗塞や狭心症）にかかりやすい人にみられる行動傾向のことです。精力的な活動、行動の強さや速さ、人に対する攻撃性などの特徴があります。「急げ急げ病」ともいわれ、競争社会で人よりもスピーディに効率よく多くの仕事をこなすためには、有利な特性かもしれません。しかし、タイプAの人の身体の状態は、常にストレス下に身をおくようなもので、ストレスに関係するホルモンやコレステロール値は高く、免疫力は低下しています。

大学生に対する質問紙調査の結果、男女にかかわらず男性性が高い人は、タイプA行動傾向が高いことがわかりました。ただし、男性性に加えて女性性も高いと、行動の強さや速さが、わずかに抑制されることもわかりました。特に男性性優位型の方は、タイプA行動傾向が自分にないか、注意が必要です（Dohi, Yamada, & Asada, 2001）。

(3) 初対面の男女一対一で、話上手、聞き上手なのは、心理的両性具有型

-コミュニケーション・スキルとジェンダー・タイプ-

この研究は、対面で会話するときの適応力に、ジェンダー・タイプによる違いがあるかどうかを実験で検討したものです（Hirokawa, Dohi, Yamada, & Miyata, 2000）。まず、実験に先立って、大学で心理学の授業を受講している男女大学生に対して質問紙調査をし、男性については、両性具有型と男性性優位型の人を選び、女性については、両性具有型と女性性優位型の人を選びました。

実験は、初対面の男女大学生に、5分間で自由な会話をしてもらい、それをビデオで撮影し、第三者によるビデオ評価結果を分析しました。また、実験の前後に被験者自身に気分や不安を自己報告してもらいました。

ビデオ評価の結果からは、男女にかかわらず両性具有型の方は、あまり会話中に緊張せず、相手との距離は短く、相手に近づいて会話をしようとしていました。

被験者の自己報告の結果からは、女性の場合、両性具有型より女性性優位型の方が、会話の前の居心地の悪さを感じていました。男性の場合は、男性性優位型より両性具有型の方が、相手の女性に対して会話の後の安堵感を与える傾向がありました。また男女にかかわらず両性具有型の方は、会話によって相手の不安を低減させることもできました。

会話は2人で行うものですが、どちらかが男性性、どちらかが女性性をもっていれば、作動性と共同性が揃ってうまくいくということではないこともわかりました。実験の結果からは、男性性優位型の男性と女性性優位型の女性、という組み合わせの二人よりも、どちらも両性具有型の組み合わせの方が、会話がスムーズに運ぶことが示唆されました。つまり、相手が作動性、あるいは共同性を発揮してくれることに頼るのではなく、お互いが共に男性性も女性性も持ち合わせている方がよいというわけです。

心理的両性具有型の方は、相手を選ばず、異性とのコミュニケーションにも長けているといたいところですが、ただし、この実験で、対象者の瞬きの回数も測定したところ、両性具有型は上手にコミュニケーションする一方、瞬きも多く、心の中ではストレスに耐えていることも示唆されています。

(4) デートでは、ジェンダー・タイプなどお構いなしで、男と女を演じきる

-親密な男女一対一の場面での役割行動-

男女大学生に、恋人もしくは親しい異性の友人との一対一の場面での役割行動や役割分担志向性についての質問紙調査を行いました(土肥,1995)。男性的役割行動には、「相手を家に送る」「重い荷物をもつ」「プロポーズをする」などがあり、女性的役割行動には、「食事や弁当を作る」「相手の部屋のそうじをする」「手紙を書く」などがありました。調査の結果、男女ともに、「男性的」とされる役割行動をするのは男性がふさわしく、「女性的」とされる役割行動をするのは女性がふさわしいと考え、実際にもそのように男女別の行動をしていました。調査前には、役割行動をするのは男性性優位型の男性や女性性優位型の女性ではないかと考えていましたが、調査結果からは、期待されたジェンダー・タイプによる役割行動の違いは全然見られませんでした。

公の場では「男は仕事、女は家庭」といった伝統的な古いジェンダーに反対を唱えている人たちも、恋人同士や家の中でのプライベートな場では、しっかり「男は仕事、女は家庭」に忠実な生活をしていることが伺われます。親密で長期的な人間関係である男女一人ずつの夫婦関係にこそ、ジェンダーが浸透しやすいのかもしれませんが。

この研究と関連して、「女と男のシャドウ・ワーク」(2000)という本では、表の社会からは見えにくい、家庭や恋人といった、社会の裏の男女の人間関係や心理を「シャドウ・ワーク」と名付け、これが社会全体のジェンダーを支えてしまう問題について、考察しています。

(5) 学生コンパでは、下戸よりは上戸が、女性よりは男性が、多く支払うのが相場
-飲酒の勘定額にみるジェンダー・ステレオタイプ-

職場の同僚やクラブメンバーなど、同世代の男女各3人、計6人でコンパをしたとします。その6人は飲酒代をどのように割ればいいでしょうか。6等分の割勘か、合理的に飲んだ量に応じて、上戸が下戸より多く支払うか、それとも男性一律〇円、女性一律△円という具合に、男女別の値段を設定するか……。男女別の値段にする場合、男性が女性より多く支払うべき？

土肥(2006)の研究は、男女別の値段設定に、どのくらい「男は女におごるべき」というジェンダー・ステレオタイプが影響しているのかを検討したものです。図11のスライドのように、男女別に飲める人数と飲めない人数を0人～3人まで変えていき、全16ケースについて、総額12,000円の酒代を男女それぞれいくらずつの支払いにすればよいか、決めてもらいました。

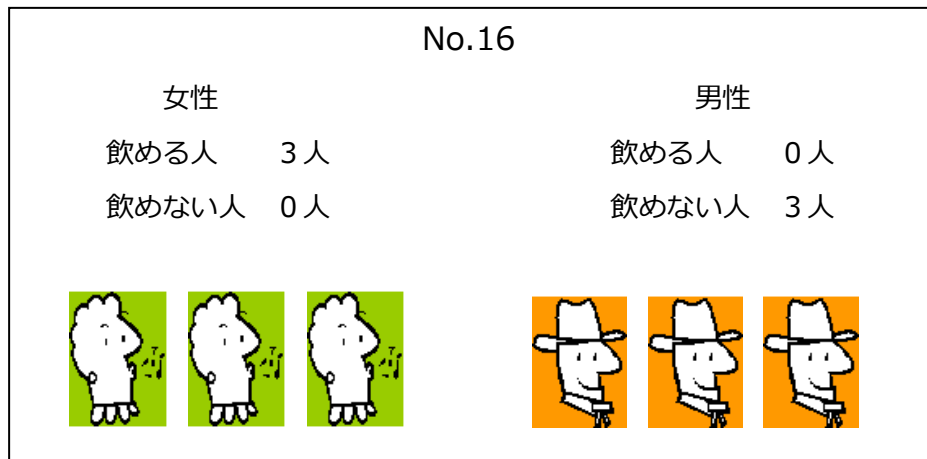


図11 女性は3人とも飲めて、男性は3人とも飲めないケースの提示スライド

その結果、よく飲める人が多く支払うべきだとする判断がみられました。つまり、女性の中で飲める人が1人、2人と増えていくと、それに伴って女性が支払うべき額も増え、同様に男性の中で飲める人が増えると、男性が支払うべき額も増えていく傾向がありました。

ところがそれと並行して、女性より男性の方が多く支払うべきという判断もみられました。たとえば、男女の飲める人数が同じケースでは、7、8割の人が割り勘で全員同じ金額にすべきと判断しましたが、割り勘を選ばなかった人のほとんどは、女性より男性の方が多く支払うべきと判断しました。

また、図11のように女性が全員飲めて、男性が全然飲めない場合、割り勘が43%、それ以外は女性の方が支払いを多くすべきという判断でしたが、反対に、男性が全員飲めて、女性が全然飲めない場合の割り勘を選んだのは、7.3%しかおらず、それ以外はほとんど男性の方が支払を多くすべきと判断しました。

次に、女性性優位型の女性は、男性に支払ってもらおうとするのではないかと予想しましたが、結果は、女性性優位型の女性ではなく、意外にも男性性優位型の女性でした。さらに、こづかいの多いリッチな女性は、太っ腹に、男性と同様あるいは男性以上に支払いをするのかと思いきや、これも予想とは逆で、小遣いの多い女性ほど、男性に多くの支払いを期待していました。日頃から「パパ」という男性にお金をもらうことに慣れていると、恋人にも同じ期待をするのだろうと思われます。

女性は、自分に好都合なところでは、女であることを上手く使っているようです。そして、稼ぎが増えたからといって、それを男性のために使うこともないのかもしれない。

(6) 母も娘も、内面的なおしゃれをするのは、両性具有型

おしゃれと聞けば、流行の服やアクセサリーで着飾り、人気タレントと同じヘアスタイルにして、セクシーさを強調して、人の視線を集めて…というような外面的なおしゃれのことを思い浮かぶ人が多いでしょう。でも、人からの評価などとは無関係に、自分自身の好みや着心地のよさ、本物志向、見えないところへのこだわりなどの内面的なおしゃれもあるのです。そこで、橋本・尾田・土肥・柏尾(2006)は、女子大学生とその母親、107組に、どのジェンダー・タイプの人が、内面・外面のそれぞれのおしゃれをするのかを明らかにするための質問紙調査を行いました。

その結果、母親の場合は、外で社会的に活動し、会食をする機会があるほど内面的なおしゃれをし、さらに、両性具有性が高いほど、内面的なおしゃれをしていました。そして、内面的なおしゃれは外面的なおしゃれをすることを促していました。

娘世代も、両性具有性がたかいほど内面的なおしゃれをする傾向があるのですが、母親世代のように、外出や会食をするからといって、それが内面的なおしゃれとはつながっていませんでした。また、外面的なおしゃれは、両性具有性の高さには関係していませんでした。若い女性は、ジェンダー・タイプに関わらず、みなが外面のおしゃれに気を遣っている年頃なのでしょう。それが母親世代になると、社会で活発に活動するかどうかによって、内面の、ひいては外面のおしゃれをする傾向の違いを生むようです。

(7) 自分がない男性はDVに走り、自分がない女性はDVを助長する

-ドメスティック・バイオレンスの経験、態度とジェンダー・アイデンティティ-

野心を抱くことや攻撃性や強引さなどは、「男性的」とみなされていますが、では家の中での暴力、つまりドメスティック・バイオレンス（DV）も「男性的」なもので、男性性優位型の男性は、DVに走りやすいのでしょうか。一方女性の中には、DVをがまんしたり、自分のせいにしてしまう人もいます。こうした人たちは、やさしく従順な、女性性優位型の女性に多いのでしょうか。

土肥（2005）は、K県の20歳以上の男女、690名を対象にした質問紙調査結果を分析し、DVの加害経験や容認傾向が、ジェンダー・スキーマやジェンダー・アイデンティティとどう関連するかを検討しました。その結果、男性で身体への暴力経験がある人は18%にのぼりましたが、その人たちは、男性性を自分にとって重要だと考えており、性の受容はあまりなされていないことがわかりました。男性性を重視する人は性的な行為を強制する経験があることも多く、男性のジェンダー・スキーマはDVに走らせてしまうことが示唆されました。

女性は、女性性を自分にとって大事であると考え、つまりジェンダー・スキーマが強い人に、DVをDVと認めない傾向がみられ、DVを助長することが示唆されました。

以上の調査結果は、ジェンダー・スキーマをもって、世間一般の男らしさ・女らしさにこだわるのが、家庭生活においても決して良い結果を招くものではないことや、ジェンダー・アイデンティティをもつことの重要性に気づかせてくれるものです。近年、ジェンダー・フリーは、男女の性の区別をなくすようなものだとして、あたかも、ジェンダー・スキーマをもつべきとするようなバッシングが起こっています。しかし、ジェンダー・フリーは決して男女の性をませごぜにして一色の人間にしようとするものではありません。性別も、一人一人の個性を作る大事な一要素です。だからこそ、「男らしさ」や「女らしさ」というたった二通りの性のあり方を押し付けてはいけないのです。

(8) 両性具有型はリーダーになるが、そこからストレスも感じている

2-(2)の調査研究からは、男性性が高いとタイプA行動傾向が強まることが明らかとなりました。これは、将来働き出したときに、男性性が高いことで職場でのパフォーマンスは高まる反面、心理的にはストレスが高まり身体的な心臓疾患を引き起こすリスクを高めることを示唆するものです。また、2-(3)

の実験では、両性具有性をもち会話場面で上手に遂行することの裏には、実は、まばたきに示されるようなストレスが伴っていることもわかっています。

これらの結果から、自己の内面が健康であることと、社会的に適応していることの両方を、バランスよく両立させるための工夫が必要だといえます。そしてそのための一つの方法が、様々な行動をする際に、オンオフの切り替えをしながら多重な役割に従事し、活動の場をいろいろなところにもっていることではないでしょうか。それにより、どこかでつまずいても、他のどこかで回復するようなコントロールがしやすくなるように思われます。

そこで、この多重な役割従事とメンタルヘルスに関する研究として、土肥(2009)の研究を紹介します。この研究は、大学生（男性 70名、女性 180名）にCASを実施し、それに加えて、これまでにリーダーとして活躍した経験（学級委員長、クラブ活動の部長や代表、委員会の委員長、生徒会長、生徒会副会長などの代表者に何度就いたかの回数）をたずね、それらとストレス（他者からの要求が多いこと、自分に活動の裁量がないこと、他者からの支援が少ないこと）やディストレス（抑うつ、不安、怒り、情緒的反応、引きこもり、身体的疲労感、自律神経系の活動亢進）、自尊心との関連を実証的に検討しました。

ジェンダー・タイプと性別によって、それらの傾向がどうなるのかを分析したところ、リーダー経験は、男女ともに両性具有型が他のいずれのジェンダー・タイプよりも多いことがわかりました。また、ジェンダー・タイプによって、ストレスやディストレスにも違いが多く見られました。具体的には、両性具有型は、他者からの要求によるストレスが高い一方、支援も多く、しかも活動にあたっての裁量も多くあることがわかりました。多くの先行研究で、両性具有型は自尊心が高いことが知られていますが、その自尊心があることで、まわりからの支援を引き出したり、自分でコントロールをきかせたりしながら、ストレスに陥らないために上手に対処していることにもつながっているのかもしれませんが。また、両性具有型は、抑うつ、情緒的反応、ひきこもりも、最も低くなっていました。

2-(1)でも説明した通り、土肥ら(1990)が大卒女性を対象に、妻・母・就業者の役割従事について行った調査でも、両性具有型が従事する役割数は、男性性優位型と並んで多く、またいずれの役割からも高い達成感を得ていましたが、同時に役割過負荷も役割数が増えるにつれ、多くなっていました。

以上のことから、多重な役割従事をすることは、心理的健康に有益であると同時に、各役割遂行からのストレス反応も増える可能性もあるため、いかに自分の役割量や種類を自己管理し、そこからのディストレスを増やさないようにメリットだけを得ることに考慮する必要があるといえそうです。

(9) 心の健康度が最も高いのは、両性具有型

心の健康については、誰もが不健康なものとなるべく低く、健康は高く維持したいと思っているはずですが、では、不健康さ、健康さに、ジェンダー・タイプはどう関わっているのでしょうか。

まず、Hirokawa & Dohi (2007)が大学生と専門学校生(女子が355名、男子が247名)を対象に行った質問紙調査をみましょう。ここでは、ジェンダー・タイプを決定する際に使われる男性性(作動性)のプラス面と女性性(共同性)のプラス面に加えて、マイナス面の影響も検討されています。不健康さの指標としては抑うつを、健康さの指標としては自尊心を測定しました。

分析の結果、男女とも、男性性と女性性のプラス面が高いと抑うつは低くなり、男性性と女性性のマイナス面が高いと抑うつは高くなりました。反対に自尊心は、男性性と女性性のプラス面が高いほど高まり、女性性のマイナス面が高いと低くなりました。

さらに、女性の場合、女性性のマイナス面が高いと抑うつは高く、そして自尊心は低くなりますが、ただし、そこに男性性のプラス面があれば、抑うつを低め自尊心を高めることがわかりました。これは、男性性・女性性の規定モデルで予測された通り、女性性のマイナス面に対しては男性性のプラス面がそれを緩和できる可能性が示唆されたといえます。

次に、2015年に、女子大学生440名、男子大学生453名に実施した調査結果です(土肥,2016)。健康指標として、「恩恵享受的自己感」(自己をとりまく他者や環境に対する肯定的感情で、日本人独自の、幸福感を高める自尊心)、「プロアクティブ・パーソナリティ」(環境からの圧迫に屈しにくく、逆に働きかける積極性やねばり強さ)、「自尊心」(一般に心理学で広く用いられてきた、自信や自分への肯定感)、「主観的幸福感」の尺度に回答をもとめました。

その結果、男女ともほぼ傾向で、健康指標全般に、ジェンダー・タイプによる違いが顕著にあらわれました。どのような健康指標についても、ほぼ、両性具有型が最も高く、次いで男性性優位型、その次が女性性優位型、最後が未分化型でした。女らしさよりも男らしさの方に、健康にむすびつくものが偏っているのかもしれませんが。あるいは、男らしさをもつ方が健康に生きられる社会を、皆が作っているのかもしれませんが。ただし、男らしさに加えて女らしさがあった方が、さらに健康になれることは間違いないようです。

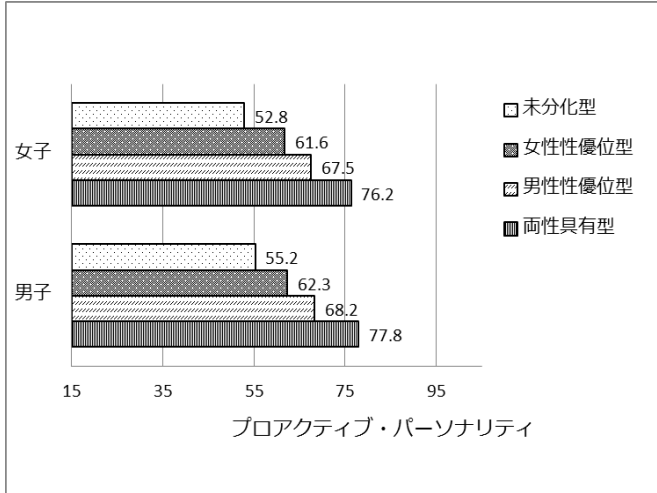


図12 男女大学生のジェンダー・タイプ別 プロアクティブ・パーソナリティ

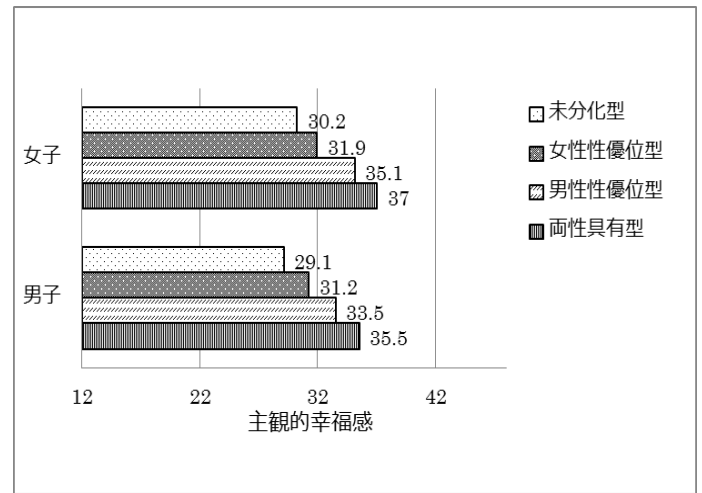


図13 男女大学生のジェンダー・タイプ別 主観的幸福感

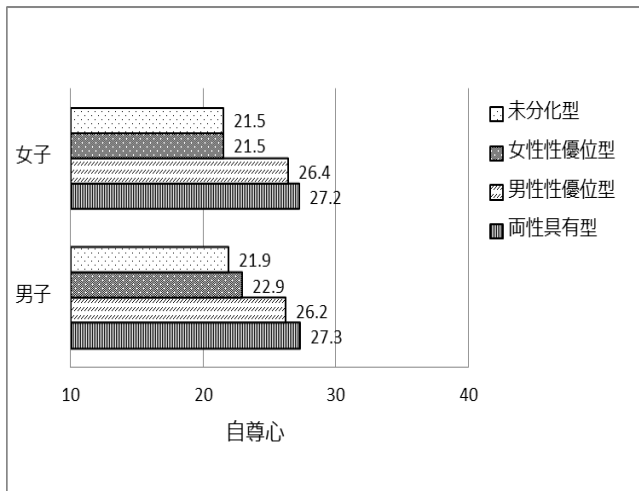


図14 男女大学生のジェンダー・タイプ別 自尊心

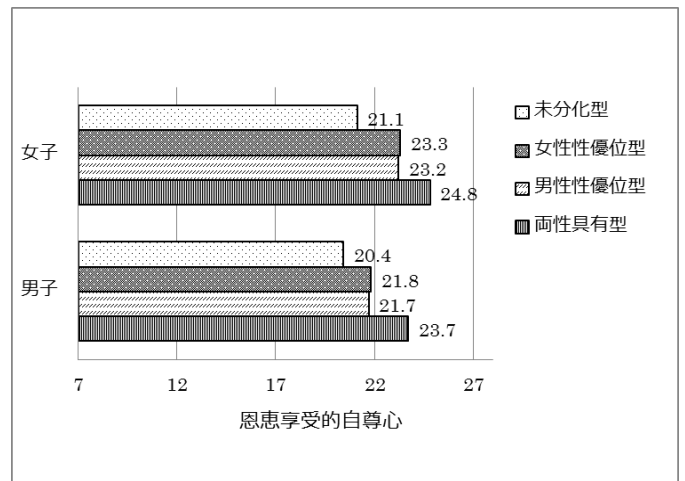


図15 男女大学生のジェンダー・タイプ別 恩恵享受的自尊心

(10) 将来の家族関係への志向性にまでは、つながりにくい

心の健康などは、個人単位のことでしたが、次に二者関係のことを考えてみましょう。

将来、男女が夫婦になると、お互いが自立した関係や、相互に依存しあえる関係や、何かと便利に社会生活を送れるようにする関係など、様々な家族関係への志向性に向かうことと思います。大学生が、現時点で、それらを志向する度合いと、ジェンダー・タイプには、何らかの関連がみられるのでしょうか。

将来の家族関係への志向性については、土肥(2015)の日本型家族志向性尺度を用い、上記の自立的、相互依存的、便宜的関係の志向性の強さを測定しました。男女別の分析の結果は、図16から図18にある通りです。先ほどの一人単位の場合と非常に対照的で、そこにはほとんどジェンダー・タイプの違いはありませんでした。つまり、ジェンダー・タイプが両性具有型である人も、夫婦の関係ではお互い自立し合いたい、あまり依存的になりたくない、などとは考えないということです。これは、2-(4)のデータのときの男女の役割行動にジェンダー・タイプによる違いがみられなかったことと通じています。男らしさも女らしさも持ち併せている人でも、いざ、恋人や配偶者を前にすると、どうしても、女であること、男であることを演じて、ジェンダーに従う行動をとってしまうのかもしれませんが。

なお、土肥(2015)の3下位尺度からなる日本型家族志向性尺度は、その後、土肥(2018)の4下位尺度(柔軟志向・分業志向・個別志向・形式志向)からなる家族関係志向性尺度に改訂しました。

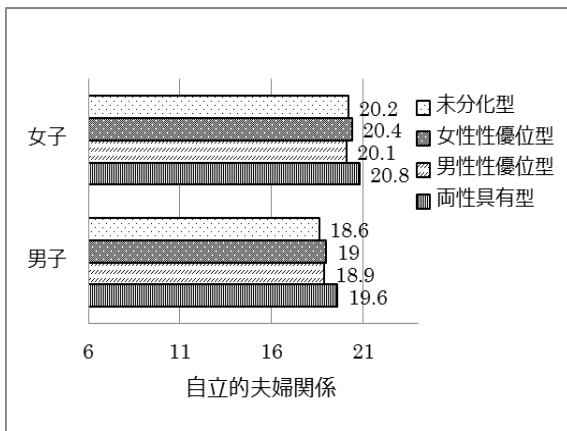


図16 自立的夫婦関係志向性

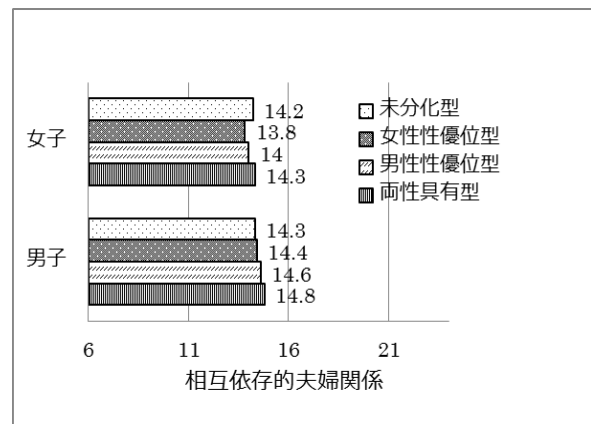


図17 相互依存的夫婦関係志向性

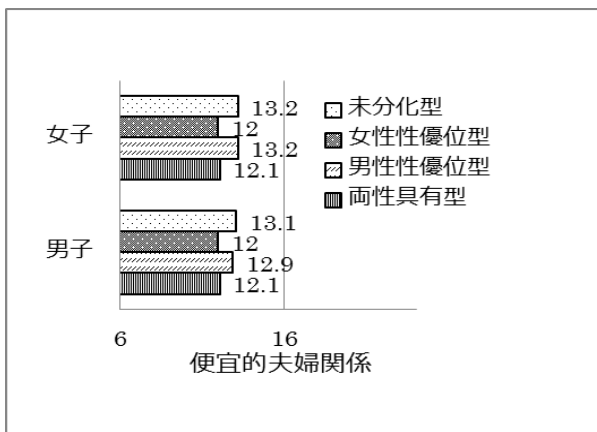


図18 便宜的夫婦関係志向性

(11) 女性性の高い男性は、日傘をさすことへの抵抗が低い

日傘は、体感温度を5～10度も下げ、熱中症予防や紫外線防止にも効果的です。しかし、日傘は女性がさすもの、というジェンダー・ステレオタイプがあるために、男性の使用は極めて稀です。ずっと以前は、女性でも若い世代の人は、年寄りっぽいと思ってさしませんでしたが…。そこで、2017年11月、男性の日傘使用を促すべく、男子大学生187名を対象に、Google Forms を用いてインターネット上で実験を行いました。具体的には、男性であっても若い世代にとっては、日傘使用により汗もかきにくくなり清潔感などを保て、就職活動などでもメリットが大きいことをアピールする文書を読んでもらいました。

実験の結果、全体的に日傘への抵抗感が高かったのですが、若い世代へのメリットをアピールした場合の方が、その抵抗感は弱まることわかりました。そして、ジェンダー・タイプ別にみると、女性性が高いタイプである女性性優位型と両性具有型は、女性性の低い未分化型よりも、抵抗感が低いことわかりました。

ジェンダーとはまた別の、世代というカテゴリーを、「交差カテゴリー」として持ち込むことで、ジェンダーを弱める効果が認められたことから、「男の」料理、リケ女、などと、直接的に反ジェンダーを提示するよりも、交差カテゴリーを提示する方が、ジェンダー緩和に有効である可能性が示唆されました。また、日傘への抵抗感が弱いのは、女性性をもつ男性であることが分かったため、こうしたタイプの男性に的を絞って女モノの使用効果をアピールすることで、彼らがジェンダーにとらわれない流行のイノベーターとなりうるのではないかと考えます。

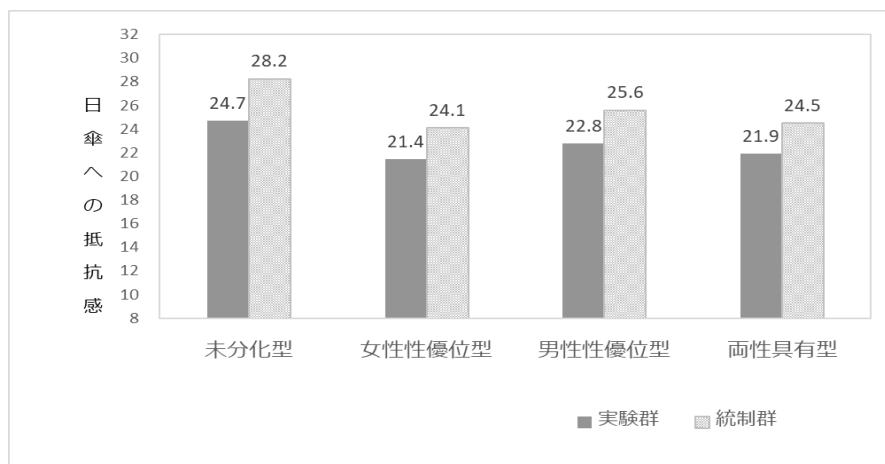


図 19 実験条件別 ジェンダー・タイプ別 日傘への抵抗感

*本研究は、関西学院大学商学部 須永努ゼミ 5 期生の岡藤朱香さん・菅間和音さん・竹田裕作さん・飛坂みはるさんからデータの提供を受けました。

3. ジェンダー・タイプのこれまでとこれから

(1) 家族の世代間連鎖, きょうだい関係とジェンダー・タイプ

1-(2)-④で紹介した、私立保育園, 家庭託児所に子どもを通わせている父母に対する調査では、家庭での性別しつけが祖母から父母へ、父母から子どもへと世代を渡って引き継がれているのか、育児は今も母親の仕事とされているのか、また長男を跡継ぎとするイ工制度の名残などで、きょうだい関係によって子どもの育て方に違いがあるのか、などを検討しました。

分析の結果、性別しつけ(男の子には男らしさを、女の子には女らしさを期待)は、祖母と父母の両世代ともにみられました。子どもを預けて共働きをしている父母たち自身も、妻はパートが多く、家庭を優先した働き方になっており、昔ながらの夫婦性別役割が現代でも続いているといえるでしょう。ということは、その役割分業に“ふさわしい”として、性別しつけと、それにそった男らしさ、女らしさのあり方も、今後もまだまだ続くのかもしれない。

また、親は子どもを一人一人の自立した人間に育てるというよりは、家族の中で、どういう人間であってほしいかを重視していることも示唆されました。きょうだい関係によって、子どもの育て方が違っていたからです。具体的には、一人っ子であれば、男の子にも女性性(共同性)を期待するのですが、女の子のきょうだいがいると、男の子にはあまり女性性(共同性)は期待せず、女性性は女の子の担当といわんばかりに、女の子に期待するのです。また、男2人のきょうだいの場合、次男よりも長男に、親子関係をもち続けることや男性性(作動性)を期待していました。子どもはいつか、育った家を離れ自立します。そのときには共同性も作動性も必要です。2-(9)のところでも触れましたが、これからの社会を生き抜くためには、家族どのようなジェンダー・タイプの人間になるかを、家族や夫婦関係とはスパッと切り離して考える方がよいのではないのでしょうか。

(2) 変わり続ける、女らしさ・男らしさの中身

ジェンダー・タイプは、女らしいと一般にみなされている性格を、どれだけ自分もっていると考えているかを女性性とし、男らしいとされる性格のそれを男性性とし、それらのプラス面の高低の組み合わせによって決めています。ただし、多くの人は何を女らしいと考えるか、男らしいと考えるかの中身は、ステレオタイプ、つまり先入観であり、これは社会の変化に伴って、少しずつ変わっていくものです。

そこで、CAS(共同性—作動性尺度)を作成して以降、どのような変化が生じたか、この先はどうなるか、女子大学生419名、男子大学生110名に対して、質問紙調査を行いました。すなわち、CASの項目について、一般に男性、そして女性の中にはどのくらいそのような人がいると思うかの推定割合を、男性の場合と女性の場合のそれぞれについて、0%から100%までで答えてもらいました(土肥・廣川・水澤,2008)。

表6 男女別 CASの項目の推定男性(女性)割合 (対応のある t 検定)

下位尺度		女性対象者			男性対象者		
		推定男性割合(%)	推定女性割合(%)	t 値 (df=418)	推定男性割合(%)	推定女性割合(%)	t 値 (df=109)
女性性 (共同性) の プラス面	ありがたい言葉を口に出せる	58	73	*** -19.05	60	69	*** -4.20
	相手の立場にたって考えられる	54	64	*** -13.82	51	52	-.76
	素直に謝ることができる	53	63	*** -12.17	50	55	* -2.51
	人をほめるのがうまい	48	68	*** -17.96	45	60	*** -6.89
	人と協力できる	62	69	*** -8.86	60	64	* -2.20
	思いやりをもって人と接している	60	67	*** -10.43	55	58	-1.78
男性性 (作動性) の プラス面	積極的に活動する	69	60	*** 10.39	57	59	-.62
	自分の意見は主張する	66	56	*** 10.84	56	56	.18
	自分に自信がある	62	57	*** 7.08	54	55	-.49
	困難なことにぶつかってもくじけない	64	54	*** 11.03	53	49	1.80
	一度決心すれば、すぐに行動に移す	65	54	*** 11.69	53	51	1.23
	意志が強く、信念を持っている	67	57	*** 10.96	54	51	1.60
性	他人のことを気にしすぎる	44	68	*** -22.82	51	66	*** -5.76

	人前で自分の意見をいうのは苦手だ	45	57	*** -13.42	52	52	-.14
	すぐに人に頼ることを考えてしまう	39	64	*** -23.02	48	58	*** -4.07
	人の言葉に傷つきやすい	50	68	*** -16.10	56	65	** -3.19
	周りの人のことを考えすぎて行動できない	36	52	*** -17.14	41	48	** -2.90
	人の発言を深読みしすぎる	40	62	*** -20.15	50	56	** -2.79
男性性 (作動性) の マイナス面	無能な人は我慢できない	59	54	*** 4.77	55	54	.49
	他人を自分のいいなりにさせる	62	48	***13.74	52	53	-.40
	相手の言い分に耳をかさない	56	48	*** 9.19	51	53	-.88
	人に攻撃的な態度をとる	59	44	*** 15.28	60	48	*** 4.37
	自分とは異なる意見を受け入れることはできない	54	46	*** 9.98	53	51	.83
	人の失敗は許せない	52	47	*** 5.36	50	49	.76

分析の結果、女性対象者は、ステレオタイプ通りに、尺度項目の全てが男性あるいは女性に偏って多く見られるものと認識していました。今も変わらず、女子大学生は、意外と保守的に、従来のステレオタイプと一致した方向で、男らしさや女らしさを捉えているといえます。それとは対照的なのが、男性対象者です。すなわち、男性性（作動性）が男性に見られる割合を、女性よりもかなり低く評定する傾向が顕著でした。たとえば、女子大学生は、「自分に自信がある」ことや「一度決心すれば、すぐに行動に移す」男性の割合は、女性よりもずっと多いと思っています。それに対して、男子大学生は、そういう人の割合は男も女も変わらないと考えていたのです。マイナス面でも同様です。「他人を自分のいいなりにさせる」や「人の失敗は許せない」のは男性の方がずっと多いと考えているのは女子学生だけで、男子学生は男も女も一緒ぐらいと考えています。男性は、男性自身に対しては、ステレオタイプの見方をする傾向が弱まりつつあるようです。

これ以前の筆者の先行研究では、ジェンダー・ステレオタイプを強く認識する傾向(ジェンダー・スキーマが高いこと)を示すのは、常に女性よりも男性でした(1-(2)-①参照)。しかし本研究の結果からは、むしろ男性の方が、ジェンダーへの認識や自覚が弱まりつつあることが示唆されたのです。すなわち、男らしさの中身が変化する徴候が見出されました。いずれ、女らしさの中身も変化する可能性がありそうです。

(3) 日本社会と女らしさ・男らしさ

前節の3-(2)で取り上げた女らしさ・男らしさの捉え方の変化は、日本社会からの影響も受けています。Dohi(2014)はその最終章の中で、従来、日本社会には、男女が一心同体で生きていくのが基本であるとする家族単位の文化があると指摘しました。すなわち、3-(1)で取り上げたイ工制度の名残、母性優位主義、それに社会保障や税や年金や婚姻や戸籍などの社会制度です。これらにより、男女がお互いに夫と妻としてお互いに依存し合うように方向づけられているといえます。ひいてはこれが、女性には女性性、男性には男性性があるのだから、2人寄ることで両性具有性が成立する仕組みをつくってきたのです。

しかし、これらの社会は、すでに未婚率、離婚率が上昇し続けていることからわかるように、家族を作らない人や、家族がいても個人の生活を優先する傾向が強まるでしょう。そうなると、男女がお互いにもたれ合って、二人で一人の両性具有人間になるのではなく、一人一人が自立した両性具有人間であることにより、社会にも適応しやすく心理的にも健康になるでしょう。ただし、家族単位から個人単位の社会には、すぐには変化しません。そこで個人は、せめて、こうした日本社会のジェンダーに対してどう考えるべきか、常にセンシティブになって(メタ認知をもって)いたいものです。

(4) 社会へはばたく、女性たちへのエール

①女性性優位型の方へ

「女性性優位型のあなた。女に生まれたのだから女らしいのはいいことです。でも、女らしさだけに偏ってはまずいですよ。そういうタイプの女性は、あまり望ましくない面でも女らしいものをもっていることが多いのです。また、あなたにはあまり備わっていない男らしさの中にも、女にもあった方がいいものがいっぱいありますよ。女らしさの強いあなたは敬遠するかもしれませんがね。さらにいえば、本当に女らしさを発揮したいと思うのであれば、男らしさもあった方がうまくいくのです。ほら、人に何かしてあげたいというやさしさがあっても、それを実行する力がないとだめでしょう。世の中の人たちは、とかく男女を区別したがるけど、それは単純にものを考えたい人間の悪いくせです。それに惑わされないで、あなたらしくありましょう。自分が何かでありたいと思えば、おのずと、女らしさだけでなく男らしさも身につけてきますよ。」

②男性性優位型の方へ

「男性性優位型のあなた。自分はれっきとした女なのに、どうして男性性優位なの？と思われるかもしれませんが、男前の女性はかっこいいですよ。男らしさの中には、女性にとっても大事なことがいっぱい含まれています。いざというときの決断力や目標に向かって突っ走ることなどです。ただ、女らしさが少なめということは、これまでに、女だからこれしてはだめとか、もっと女らしくしなさいとか言われ続け、それに納得できない気持ちがあって反発しているのかもしれないかもしれません。でも、別に女らしさが少な目であることを気にしすぎない方がいいです。あなたはあなたらしくしていればいいと思います。」

③未分化型の方へ

「未分化型のあなた。あなたは今のところは、まだ女らしさも男らしさも少な目です。ご両親はあなたが女性であることをあまり意識せずに育ててこられたのだと思います。ただ、これから先、おそらく社会で働き始めたりすると、女性であることを意識せざるを得ないことや、女性としての女らしさを期待されることが、だんだん増えてくるでしょう。そのときには、女らしくなってみるのもいいですが、女らしさの中には、自分や社会にとって望ましいものもあればそうでもないものもあります。また、男らしさは自分には関係ないと思っているかもしれませんが、男らしさの中にも女のあなたも持っているといいものも含まれています。これからも、あまり性別にこだわらずに自然体で、あなたらしさを磨いていって下さい。」

④心理的両性具有型の方へ

「心理的両性具有型のあなた。いい意味で、男らしさも女らしさももっていて、TPOに応じてそれらをうまく使いこなすことができる人ですね。女らしさにこだわったり、反発したい気持ちをもった時期もあったと思いますが、今はそういうことから卒業できたのだと思います。そして、あなたらしく生きようと思ったら、男らしいとされるものも、身につけるようになったのでしょうか。また、女らしさや男らしさには、あまり望ましくないものも含まれていますが、あなたはそれをきちんと見分けて、望ましくないところはもたないようにしています。そして、ひとりひとり個性をもっているのに、人を男か女かの2つだけに分けて考えてしまうことの無意味さを理解しているのだと思います。社会に出ると、女性としての役割をいろいろと押しつけられることもあるかと思いますが、これからも、ときには男っぽく、またときには女らしく、しなやかに立ち回ってほしいと思います。」

<文献>

- 土肥伊都子 (1994) ジェンダーに関する2種のスキーマ・モデルの比較検討 『心理学研究』, 65, 61-66.
- 土肥伊都子 (1995a) 心理学的男女両性具有性の形成に関する一考察 『心理学評論』, 37, 192-203.
- 土肥伊都子 (1995b) 性役割分担志向性・実行度および愛情・好意度に及ぼす性別とジェンダー・パーソナリティの影響 『関西学院大学社会学部紀要』, 73, 97-107.
- 土肥伊都子 (1996) ジェンダー・アイデンティティ尺度の作成 『教育心理学研究』, 44, 187-194.
- 土肥伊都子 (1998) 男性性・女性性の規定モデルの実証的検討 『四天王寺国際仏教大学文学部紀要』, 30, 92-107.
- 土肥伊都子 (1999) 『ジェンダーに関する自己概念の研究 - 男性性・女性性の規定因とその機能』 多賀出版
- 土肥伊都子 (2005) ドメスティック・バイオレンスの心理的過程に関する実証的研究 - ジェンダー・パーソナリティとの関連 『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』, 46, 17-39.
- 土肥伊都子 (2006) 飲酒の勘定額にみるジェンダー・ステレオタイプ - 女性性・男性性との関連 『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』, 47, 61-77.
- 土肥伊都子 (2009) ジェンダー・パーソナリティが心理的ディストレスに及ぼす影響 - 多重役割としてのリーダー経験に注目して - 『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』, 50, 1-17.
- 土肥伊都子 (2011a) 家族内のジェンダーの社会化に関する実証的検討 - 世代間の関連ときょうだい構成に注目して - 『家族心理学研究』, 25, 1-12. .
- 土肥伊都子 (2011b) ジェンダーと自己 榎本博明 (編著) 『自己心理学の最先端 - 自己の構造と機能を科学する』 あいり出版 pp.34-43
- Dohi, I. (2014) *Gender personality in Japanese society: The determinants of femininity / masculinity, mental health, female-male relationships, and cultural factors*. Osaka: Union Press.
- 土肥伊都子 (2015) 日本型家族志向性尺度の作成 日本心理学会第79回大会発表論文集
- 土肥伊都子 (2016) ジェンダー・パーソナリティの規定因と心理的健康への影響 - 日本型家族志向性に注目して -
- 土肥伊都子 (2018) 家族関係志向性尺度の開発 『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』, 7, 1-13.

- 土肥伊都子・広沢俊宗・田中國夫（1990）多重な役割従事に関する研究－役割従事タイプ，達成感と男性性，女性性の効果－ 『社会心理学研究』, 5, 137-145.
- 土肥伊都子・廣川空美（2004）共同性・作動性尺度（CAS）の作成と構成概念妥当性の検討－ジェンダー・パーソナリティの肯否両側面の測定－ 『心理学研究』, 75, 420-427.
- 土肥伊都子・廣川空美・水澤慶緒里（2008）共同性-作動性尺度の構成 概念妥当性の検討－『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』, 49, 1-16.
- Dohi, I., Yamada, F., & Asada, H. (2001) The relationship between masculinity and the Type A behavior pattern: the moderating effects of femininity. *Japanese Psychological Research*, 43, 83-90.
- 橋本幸子・尾田貴子・土肥伊都子・柏尾眞津子（2006）おしゃれの二面性尺度の作成およびジェンダー・パーソナリティとの因果分析：母世代・娘世代の比較 『社会心理学研究』, 21, 241-248.
- Hirokawa, K., & Dohi, I. (2007) Agency and communion related to mental health in Japanese young adults. *Sex Roles*, 56, 517-524.
- Hirokawa, K., Dohi, I., Yamada, F., & Miyata, Y. (2000) The effects of sex, gender type, and partner's gender type on interpersonal adjustment during a first encounter: androgynous and stereotypically sex-typed couples. *Japanese Psychological Research*, 42, 102-111.



どうも有難うございました。

注) 2004年以降に発表した研究は，全て，CAS(共同性—作動性尺度)を用いて，女性性と男性性を測定しています。